

ヴァチカン図書館 訪書記（下）

福井文雅

三

本誌前々號でヴァチカン図書館参考室常備の *Pelliot-Manuscripts et Imprimés de l'Extrême-Orient*〔ペリオ極東の寫本と印刷物〕を紹介したが、この512の目録がヴァチカン図書館の漢籍（刊本・寫本）に関する唯一の目録である。本號では、その515番の目録とはどう言うものであるか？を述べねばならない。

それは、ファイル・カードに *Inventario Pelliot*〔ペリオ目録〕、1922と印刷してあるように、ポール・ペリオが1922年に作成した佛文の目録であって、タイプ印刷。正確には次の題名である。

Inventaire sommaire des manuscrits et imprimés chinois de la Bibliothèque Vaticane, par Paul Pelliot (13 juin - 6 juillet 1922)

一九二二年六月十三日から七月六日の間にポール・ペリオが作製した『ヴァチカン図書館の漢語寫本の簡明目録』〔以下『ペリオ目録』と略稱する〕

但し、その *Table des matières*〔目次〕はイタリア語で、括弧内にフランス語を添えて次のようになっている。日本語の試譯を添えておく。

Barberini Orient. (mss. et impr.) 2

バルベリーニ由來東洋關係書（寫本と刊本）

Borgia Cinese (mss. et impr.) 11

ボルジア由來中國書（寫本と刊本）

Borgià Siamese (mss.) 76
ボルジア由來シャム書（寫本）	
Rossiani stampati (imp.) 77
ロシアニ由來刊本（刊本）	
Vat. Estr. Orient. (mss.) 78
ヴァチカン由來極東書（寫本）	
Raccolta prima (impr.) 82
最初期蒐集本（刊本）	
Raccolta Generale Oriente 84
東洋一般蒐集本〔但し、本文中のタイトルには Stragrandi「大量の」の語が付加してある〕	
Index des titres chinois114
漢籍題名索引	
Index des noms d'auteurs européens126
ヨーロッパ人著者名索引	

「目次」の後には、次の Abbreviations「略語表」が付いている。

Cordier=Bibliographie des ouvrages publiés en Chine par les Européens au XVII^e et au XVIII^e siècle — Paris, 1901

コルディエ=十七～十八世紀にヨーロッパ人によって中國で發表された
著作の目録（パリ，1901）

Courant=Catalogue des livres chinois, coréens, japonais etc. de la
Bibliothèque Nationale — Paris, 1912 sqq.

クーラン=〔フランス〕國立圖書館所藏中國・朝鮮・日本等々の書誌
（パリ，1912年以降）

唯、このコルディエとクーラン兩方に載る記載を、ペリオは目録内部で對比
したり批判したりもしている。

四

この目録を讀んで、必要と思われた箇所を筆記して來た結果を次に列擧して

おきたい。但し、先號で觸れたカード・ボックス所収のカードと對照すると、この『ペリオ目録』には落ちている文獻もある。それは隨所に挿入していく。

目録の説明は全てフランス語で、固有名詞の漢語、梵語、チベット語等々の表記も、全てフランス極東學院方式によっている。しかし、『ペリオ目録』には無いものの、圖書カード上では漢字表記や漢語に依る説明が付加してある場合もあるので、それはカギ括弧に入れて示した。但し、それを書き入れたのが誰であるのか？ までは、調べる時間が無かった。龜甲括弧は福井の注記。

書物冒頭のローマ字は、上記「目次」に出ているローマ字と對應するものなので、すぐに見當は付くであろう。續く數字はその書架番號である。この兩方をまとめて Code 「コード」と呼んでいる。つまり、圖書番號である。

實際には、コードはローマ字と數字を縦五段以内に重ねて表記してあるが、ここでは紙數の関係から、必要な場合に斜線を入れて段の區別を付けるだけで、一々五段づつには分けては記さない。それで十分理解可能であるが、しかし、實際に借り出す時には、用紙の所定の五段區分に分けて書き込む必要はある。

Barbe Oriente 『須彌三界圖』 一幅 40×93

151/4 (b)

僧侶宗可の作で吳瑜が加筆。「崇禎辛未」に文啓華が「重鐫」幅 39 センチ、高さ 94 センチ。

R. G. Oriente 『順渠先生文錄解説』「昭和七年 日本版」

IV 1536 (1-5) 『ペリオ目録』には未掲載]

Borgià Cinese 『新纂古文字考』 5 卷 [但し、カードでは類纂～となっている]

「手抄。未詳抄繕年月地名 一冊 精裝。此書係一部中葡字典，洋文部分似乎出於傳方濟 (Fouquet) 手筆，卷末付馬 [=馬] 當時公教書籍出版處索引」

フランスの中國學初期の有名な Fouquet [フーケット、1663～] 眞筆の書き込みであるとすれば、貴重である。馬當時とは Montucci モントウッチの音寫。

R. G. Oriente 『麻衣相法』「八閩青陽子撰 達摩祖師著 道光三年刊
IV 2911 (2) (1823) 崇順堂, 木刻版 一冊」[『ペリオ目録』には未
掲載]

Borgia Cinese 『易學總旨奏稿』「手抄 白普等奏 未詳年月」。
439 A (h)

この白普は Bouvet ブーヴェ(1656—1730)のこと。フランス語説明は「或る
年の六日付刺令で、康熙帝が易經注について質問したことについて、Foucquet
フーケットとブーヴェとがヌラリクマリとした答えの報告」である。なお、フ
ーケットは Foucquet とも Fouquet とも書いた。最後の t はこの際例外的
に發音する。シャンゼリゼ大通りの有名なレストランの名前でもあり、日本の
「風月堂」はそれの音寫。

Borgia Cinese 『西儒耳目資』
422

これを「未詳名氏」とカードがするのは不可解である。この餘りにも有名な
書物の著者を知らないはずが無く、實際、RACC. GEN. OR. p. 111, 289/50
には、「par Trigault」[トリゴーに依る]の語が付加してある。書中に「康熙
遺詔」。[『ペリオ目録』には未掲載]

佛典としては、次が目付いた —

Barb. Oriente 「梁完(金書=金で書かれた, の意)手抄本。元
148 (1) (2) 大方廣佛華嚴經卷五十九 元 至正五年乙酉(1345)十
二月日抄」

Borgia Cinese 「致日本教友書(原文)
520 (1) 方濟各會日本會長 Diego 1628年四月十六日 三葉」

この文書についてペリオは p. 74 で次のように註している—「1628年の陰曆
四月十六日に、フランシスコ會のサン=フランシスコ・ディエゴ修道士が日本

のキリスト教諸教會へ宛てた日本語の手紙。手紙は或る日本人の家庭に在った。それが1886年に、Osouf オスフ司教の手で〔ローマ教皇廳の〕布教聖省へ送られたが、それには Ligneul リニョル司教のフランス語譯が添えられていた。」

Diego とは、後のページに Diego de Pantoja と出て來るところから考えると、日本傳道を志したスペイン人イエズス會士のパントーハ Didaco de Pantoja を直ぐに思い付く。中國名 龐迪我 (1571—1618)。マテオリッチの布教を助けた。従って、これが直筆であれば大變であるが、しかし、この手紙の年時が遅い上に、ペリオの註のように、所屬する會も違ひし、San Francisco の Diego と明記しているので、別人と見なければなるまい。

しかし、とすれば、後に Diego de Pantoja と書いてあるのは、どう言う意味なのであろうか？

Borgià Cinese 「論道書、未詳作者。」

361 (1) C

ペリオは p. 49 で次のように註している — 「d) 中國語を引用したフランス語の長い手紙の寫し。1728年10月10日の日付がある。無名。二葉から六葉までは種々違つた漢字での寫本で、易經についてイエズス會士の仕事に關係している。」

但しカードのコードではCとあるのに、ペリオはそれをdにしている。どちらかの間違いであらうが、貸出しの時には要注意である。

Borgià Cinese 「道論 傳方濟撰書 據附註、草成於1719年正月十八號。

371 (42) 二冊 原名爲 “Problème théologique”〔神學の問題〕

ペリオの註では、フーケット自身の手書きである。

Borgià Cinese 「雜抄 傳方濟 Foucquet 1663～？ 1701-1706 間抄成。

376 (1) 一冊 25.5 公分 西訂布面」ペリオは全文フーケットの書と見る。

R. G. Oriente 「佛教六經同函全部 道光二十二年，光緒九年（？）。摺
VI 247 (1~6) 本六一函」

Borgia Cinese 『信望愛大赦經』「未詳印行年月地名 一冊。線裝」
345 (2)

Borgia Cinese 『儒教釋義』「溫古子 述。手抄本 未詳抄成年月地名
316 (20) 一冊。線訂」

ペリオは「一人のキリスト教徒が問答體で書いたもの」と註する。

五

この『ペリオ目錄』全體については、以上の注記の他にも、注意を引かれた
點があった。それをアット・ランダムに箇條書きして、最後に付記しておくこ
とにしたい。

ヴァチカン圖書館への入庫本の系統と由來 —

① Annam [廣義でヴェトナム] と Siam [タイ] から入った漢籍が p. 8 に
2 點, p. 89 にはレオ十三世ローマ教皇から獻呈の Annam 由來漢籍が 1 點
(R. G. Oriente III/176) 記載されている。

② 滿州語での漢籍譯文もある。

③ p. 8 の Barb. Orient. 152/1°~5° の 5 點は日本關係文書。ラテン語譯
を添えてある。

但し、索引には日本名では採られていない。

④ pp. 84~86 に依れば、Kandjour [カンジュール] と Nâr Thang [ナルタ
ン] 兩版のチベット藏經も入っているらしい。

⑤ 佛教については述べた通りであるが、道教については『道言内外秘訣全
書』が「一函十冊(未詳印行年月)」とカードにあるだけである。この全書
は、現在の『道藏』には(少なくともこの題名では)見当たらない。~全書
と言う題名から見ても、恐らくは明末以降の新しい刊行物であろう。

- ⑥ p. 46 によれば、ウィーン駐在アメリカ公使のシュオーツ J. G. Schwartz から19點 fascicule [冊子を指すのであろうか] が寄せられている。
- ⑦ p. 80 VAT. ESTR. OR. No. 17 にフランス文で「詩經の寫本とラテン語譯。スタニスラス・ジュリヤン Stanislas Julien の自筆原稿である。1859 年に本圖書館に入った、つまりジュリヤンの生前のものである。」とある。
- ⑧ フーケット Foucquet (1663～) の自筆本が多い。
- ⑨ 1983年以降に臺灣・商務印書館から出版された國立故宮博物院藏本のリプリント本が、意外に多く混入している。
- ⑩ 「目次」にも出てくる「Barberini バルベリーニ」とか「Borgia ボルジア」, 「Rossiani ロッシャーニ」の由來については後考を待つ。

Borgia ボルジアとは、18世紀の le cardinal Stefano Borgia [ステファノー・ボルジア樞機卿] のことであらうか。

「手抄」について —

- ① 「手抄 (按部首排印)」とあるカードの束が「Cinese (1) 書名分析卡」の箱に入っている。合計 223 冊。しかし、著者名と書名とを重複してカード化している場合もあるし、「未詳」とある場合は筆者名では検索出来ないのも、實数はその半数程度であらう。なお、手抄本は *manuscrit* とフランス語譯されている。
- ② 「手抄本」と言う注記がカードに時々見えるが、その出所は Fonds Barberini oriental (Barberini Orient.) と Fonds Borgia Chinois (Borgiano Cinese) である。「Fonds 某」とは、某収集または寄贈または縁りの収集品、書籍の意味。

『ペリオ目録』への書き込み —

- ① 『ペリオ目録』には、調査當時に判らなかったのか、または、後で書き入れようとして出来ず終いでそのままに放置した爲であるのか、ともあれ、時々括弧で空欄になったままの箇所が残っている。

例えば, p. 45に, で, Borg. Cin. 351/7° で, Doit être de K'ang-hi

sin-sseu () [K'ang-hi sin-sseu の一部であるに違いない] とか, p. 46 の Borg. Cin. 356 に *Chang-chou je ki* に註して, La préface de l'auteur est de Wan-li yi wei () [序文は Wan-li yi wei のものである] とするが如きである。また, Borg. Cin. 351/13° の *Siang-mao tchou keou* に漢語表記は添えて無い。

因みに, K'ang-hi sin-sseu は拼音に直せば Kangxi-xinsi であり, 康熙新思とでもなろうか? *Chang-chou je ki* は *Shangshu-reji* と直せるが, 『尙書?』までしか不學にして判らない。Wan-li yi wei とは「萬曆乙未」の音寫, つまり西暦1595年を指す。*Siang-mao tchou keou* は拼音では *Xiang-mao-zhugou* となるが, 相貌猪狗であろうか…………… 待考。

② 『ペリオ目録』へはフランス語での書き込みがあるが, 筆跡が違うので別人であろう。少なくとも三人以上が後から書き入れている。

③ p. 77 Rossiani Stampati には整理番號に違いがあり, XV 415-bis, *K'iung hiang pi'en fang* の項に「Già XV 415 bis adesso 3474」と言うペンでの書き込みがある。これはイタリア語で「従来は XV 415 bis であったが, 現在は3473」の意味であるが, イタリア語での書き込みであるところから見ると, フランス人以外にも『ペリオ目録』の修正に参加した人々はいたらしい。

因みに, *K'iung hiang pi'en fang* を拼音に直せば Qiongxian pian-fang である。窮郷偏方とでも復原出来ようが, 自信は無い。

④ 81 A—81 B, VAT. ESTR. OR. に (1934) の日付の注記書き込みがある。ペリオの自筆を私は知らないの、それがペリオの書き入れかどうか判定出来ないが、實は、私の舊師ドミエヴィル Paul Demiéville の筆跡と極めて良く似ている。先生はイタリア語で『中國文學史』を出されたほどにイタリア語も自由であり、イエズス會士の研究も發表しておられたので、この『ペリオ目録』に増補の書き込みをされた可能性は多分にある。

おわりに

ヨーロッパの圖書館所藏近世漢籍を訊ねる旅の一環として、ヴァチカン圖書

館を訪ねた印象記が以上である。なにしろ二日足らずの餘裕しかなかったので、實物に當って確かめる時間が無かった。『ペリオ目録』を讀了し、それを別置カードと比較検討するだけで精一杯という状況であった。

しかし、『道言内外秘訣全書』十冊のように、中國宗教關係では近世漢籍の所在を確かめることが出来た。後はまた折りを見て、實物をじっくりと檢證して見たい。

實は、その他にも『ペリオ目録』に載っていない漢籍が、未だ倉庫などで眠っている感じはしている。そう感じた根據を書くと、迷惑をおかけすることになる方もいるのでここでは書かないが、本稿(上)で述べたレオン・ド・ローニの舊藏書の發見や、その後もギメ博物館で發見された東大寺佛像の例もあり、あれだけ多くの宣教師を送りだしたヴァチカンに、または近くに、當時の漢籍資料が残っていないはずが無い。

その後、漢字を讀める管理者がいなくなってしまった爲に、梱包されたままで片隅に放置されていたり(パリのギメでの失われた日本佛像發見がその例)、或いは、別置されて忘れられている(レオン・ド・ローニの舊藏書の發見の例)可能性は無しとしないのである。日本でも、名古屋の七ツ寺での古逸佛典發見と言う大事件が最近起きている。

それはともあれ、ヴァチカン圖書館入館までの手続きと『ペリオ目録』の内容とを、日本で公表した文章は未見である。或いは司書、圖書館員には常識の點はあるかも知れないが、アジア研究者一般ではそうでもなさそうである。その意味で、二號に涉った本稿も幾らかの役に立つことかと思っている。

最後になったが、ヴァチカン圖書館のみならず、ヨーロッパ各地圖書館への紹介の勞を執られたオックスフォード大學ボードレイヤン圖書館東洋文獻部門司書 Department of Oriental Books, Bodleian Library, OXFORD のダヴィッド・ホリウエル David Helliwell 氏、種々の便宜を計って下さったヴァチカン圖書館司書長 Il Prefetto della Biblioteca Vaticana のレオナード・E・ボイル Leonard E. Boyle 博士、事務局のチェレーゼ Cerese 氏に深甚の謝意を述べておきたい。

フランス國內の圖書館の漢籍または中國關係歐文圖書の状況については、北

京圖書館書目文獻出版社刊《周一良先生八十生日紀念論文集》に寄稿しておいた。